平成３０年度　（会派名）江別未来づくりの会　　報告書

１　調査年月日

平成３１年１月２２日（火）～２３日（水）

２　調査項目及び調査地

【調査項目】

（１）観光国際交流センターの運営について

・観光国際交流センター設立までの経緯について

・観光国際交流センターの概要と機能について

・観光国際交流センターの今後の課題等について

・現状の課題と今後の展望について

【調査地】

北海道釧路市観光国際交流センター

３　議員名

石田　武史

本間　憲一

４　調査報告書

別紙のとおり

５　その他

行　政　調　査　報　告　書

江別未来づくりの会　　本　間　憲　一
石　田　武　史（文責）

調　査　内　容　観光国際交流センターの運営について
１　観光国際交流センター設立までの経緯について
２　観光国際交流センターの概要と機能について
３　観光国際交流センターの今後の課題等について
調　　査　　日　平成３１年１月２２日
調　査　場　所　北海道釧路市幸町３－３　　釧路市観光国際交流センター
出　　席　　者
一般社団法人釧路観光コンベンション協会
釧路市観光国際交流センター総務監理課主任　　伊　藤　勝　則
釧路市産業振興部観光振興監　　菅　野　隆　博
釧路市産業振興部観光振興室観光振興担当課長補佐　髙　橋　利　和

１　市の概要

釧路市は、北海道の東部太平洋側に位置し、人口は約１７万人と他の地区同様に減少が続いている。面積は約１３６３平方キロメートル。冷涼な気候で、海岸部では冬季間も降雪が少ない。

港湾都市としても発展してきたほか定期国際便が就航する空港がある。数か所の工業団地内には多くの企業の工場があるうえ、海底炭鉱があり海外からも研修生が来訪している。一次産業では酪農と漁業が盛んである。釧路湿原国立公園と阿寒摩周国立公園の２つの国立公園がある。

２　観光国際交流センター設立までの経緯について

釧路市観光国際交流センターは、釧路フィッシャーマンズワーフ構想に基づいて、平成３年策定の第二次計画として、国の内外を問わず、さまざまな文化交流の拠点施設として、地域観光の振興及び国際交流の推進等に資するために、平成５年６月に総事業費３１億６千万円で完成した。

釧路市随一の収容能力と設備を備えたコンベンション施設であり、開館直後の６月には、世界９５か国、１５１団体、延べ１２１７人が参加したラムサール条約第５回締約国会議が開催され、大規模な国際会議の会場としても実績を有している。

３　観光国際交流センターの概要と機能について

本施設の大きな特徴としては、使用目的を選ばない多様性にあり、１階大ホールでは、

広々としたフラットな床面と可動間仕切りなどを活用して、イベント、物産展、各種大会、さまざまな学会の開催を可能とし、２・３階には、視聴覚室、研修室、会議室、和室等を整備し、一般の会議や研修会などで使用されている。

そのほかに、本施設前面は、野外緑地と連動して、都市型イベント広場機能を有しているため、観光客誘致に大きく寄与する一大イベント「釧路大漁どんぱく」をはじめとして、各種お祭りやイベントの会場としても広く活用されている。

なお、施設の維持管理は一般社団法人釧路観光コンベンション協会が指定管理者として指定管理料年間約５０００万円で業務に当たっている。

当施設には、①地域観光情報提供機能　②国際交流情報提供機能　③憩いと交流の場の提供　④会議・展示会等の会場の提供など、さまざまの顔をゆうしている。

４　観光国際交流センターの今後の課題等について

今後の課題等については、施設の老朽化に対する対応と、同種会場設備を有する施設との選別、そして、国際会議等の誘致があげられる。

なお、館内にある国際交流情報提供の場としての国際交流プラザや憩いと交流の場としてのスペースの提供についても、イベント等がない時期にはなかなか利用が進まない傾向にあり苦労しているとのことである。